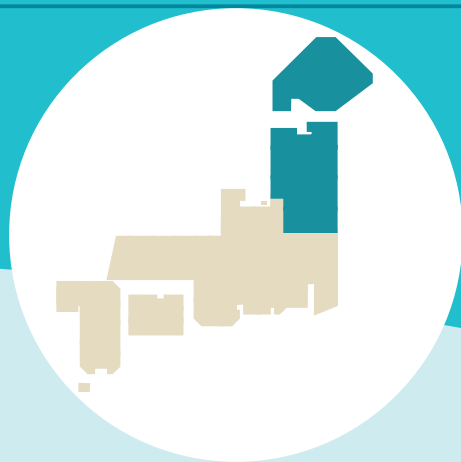


北海道・東北



p.6 岩手県

亀澤 榮三郎さん
ゴルフ



p.7 岩手県

広野 昭三さん
卓球



p.8 秋田県

藤原 甚英さん
健康マーじゃん



p.9 福島県

佐藤 彰さん
ソフトボール



p.10 福島県

武田 秀作さん
ソフトテニス



p.11 札幌市

吉野 さおりさん
ソフトテニス





ゴルフ

岩手わんこチーム
(選手代表)

かめざわ えいざぶるう
亀澤 榮三郎さん

75歳

●参加歴：1回目

仲間と挑んだねんりんピックの思い出

「東京都 A、鈴木〇〇さん…。まるで、プロゴルフのテレビ中継を観ているようなアナウンス。

10月20日9時32分、岐阜関カントリー倶楽部西コース1番ホール、20組目。「イワテケン、カメラザワ…。」ティーイングエリア後方の数段高い所で東京と盛岡から応援(?!)に駆けつけた家族が見守るなか、4人でのラウンドが定刻にスタートした。

その前々日には、三笠宮家の彬子さまご臨席のもと、長良川競技場で総合開会式が行われた。本来は2020年度に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期。翌年には中止決定となり、三度目の正直ということであった。

開会式では、主催者あいさつ、彬子さまのお言葉、選手宣誓、炬火点火に続き、いろいろな催し物が披露された。会場には小中学生の原画をもとにした横断幕がずらり。我が県は、さん

さ踊り、わんこそば、宮沢賢治を意識したであろう蒸気機関車等々。一番印象的だったのは、この夏、甲子園球場を大いに沸かせた岐阜商業高等学校の硬式野球部と応援部による大会参加者への応援エールであった。

開会式終了後、ふれあい広場を散策していると、そこでもあの応援をやっているではないか。周囲はすごい人だかり。岐阜県の高校野球(硬式、軟式どちらも)の強さの秘密は、この辺りにあるのかなと思った。

競技はほぼスルーで後半に進んだ。年間100回以上ラウンドする東京都のAさん、同じく120回以上の名古屋市のBさんはいずれも会社オーナーで、経営は後継者に任せているとのこと。所属クラブの女子選手として4人の枠の中に入りたくと活躍中のCさん。そんな話をしながら迎えた17番パー3でバーディー、最終18番はパー。結果を知ったのは帰りのバスの中で、最後の2ホールに助けられて個人戦は第5位。同組のCさんが教えてくれた。天候にも恵まれ、素晴らしいコースで、キャディーさんにもお世話になり本当に楽しいラウンドだった。

交歓会を終えバスに乗り込むと、窓の外では岐阜関カントリー倶楽部のスタッフの皆さんが横一列に並んで手を振ってくれていた。ああ、これが、「ねんりんピック岐阜2020～2025」だったのだなと。

最後に、岩手県代表の工藤篤雄さん、高橋好治さん、2025年6月2日の代表決定以来、そして、10月17日からの4泊5日、食事もゴルフもともにし、楽しい思い出をつくることができ、本当にありがとうございました。



総合開会式会場のモニュメントの前で。(右端)



卓球

鬼っこ岩手
(選手)

ひろの しょうそう
広野 昭三さん

77歳

● 参加歴：1回目

レベルアップして、全国の仲間と再会したい

第37回を迎える歴史ある大会について、大先輩が参加し活躍されたお話などを聞くうちに、私も機会があれば参加したいと思うようになりました。並みいる強豪の中で、自分がどのくらいの成績を残せるか試してみたい——そんな想いもありました。今年には岐阜県の開催で、岩手から比較的近距離にあること、あわせて、関ヶ原の戦いなど歴戦の地の文化や古城に触れる良い機会だと思い、4月の県予選会に参加しました。

私は、ラージボール卓球に取り組んで約20年になります。健康維持を兼ね、子育ても終わって卓球を趣味として楽しむ老若男女の仲間と一

緒に、週2～3回、クラブで練習をしております。

今回、初めてねりんピックに参加し、全国から集まった60歳以上の皆さんが、日頃の練習の成果を発揮しながら澁刺と技を競い合っている姿を見ることができました。長年培ってきた技術は、年齢を感じさせない堅実な試合運びとなって表れ、対戦を重ねるごとにそのレベルの高さを実感しました。

全63チームが集結して迎えた大会初日。3チームによる予選第1次リーグ戦で、岩手県は佐賀県、岐阜県との対戦で2勝し、1位で通過。続く茨城県、大阪府との1位ブロック第2次リーグ戦では2敗。決勝リーグ7チームには残れませんでした。

チームは、北上ひばりクラブ（北上市）から5人、ラージフレンド岩手（盛岡市）から1人、合計6人で出場。大会までの6カ月間、合同練習をした成果もあり、応援いただいた仲間に「勝ってしまいました」と報告することができました。

全国には、元気に技術を高めて研鑽されている多くの方々がいることを実感しました。試合の合間には、各県の皆様との交流もできました。次回お会いする時には、レベルアップした姿をお見せできるよう努めたいと思います。

今大会の運営や交通宿泊手配、連絡などにご尽力をいただきました関係者の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。



合同練習の成果を発揮し、大健闘した鬼っこ岩手チーム！（後列右端）



健康マーじゃん

ふじわら じんえい
藤原 甚英さん

卓上の紳士
(選手)

60歳

●参加歴：1回目

チームワークでつかんだ「銀メダル」

私のねんりんピック初参加は、団体戦2位、個人戦11位という素晴らしい結果に終わることができました。これも出場の機会を与えてくださった秋田県健康マーじゃん推進実行委員会をはじめ各関係者の皆様のおかげと感謝しております。

今回出場した4人は、月1回定例会が開催される雀喜会という任意の団体からの選出であり、普段はライバルとして対戦しているメンバーでもあります。出場が決まってからは、数多くの「ミーティング」と「飲み会」を重ねて、団結力を深めたうえでの出場となりました。

大会会場となる岐阜県には、地元の大館能代空港から飛行機で東京に出て、新幹線で秋田県選手団が待つ名古屋へ入ることにしました。当然、新幹線での車中は「飲みニケーション」で盛り上がり、チームワークも一段と深まりました。到着後は無事に秋田県選手団と合流し、県選手団との親睦会に参加。時間が短いと感じるほど、非常に楽しい親睦会であったと思います。

大会初日の10月18日には長良川競技場で、

皇室から彬子さまをお迎えし、盛大に総合開会式が開催され、感動するとともに出場して良かったと思いました。

10月19日からいよいよ競技開始です。初日の団体戦では、それぞれ4人がマイナスにならないよう心がけ、常に点数を報告しながら上位を狙うという作戦にしました。2回戦が終了した時点で全体の11位でしたが、団体戦は8位までが入賞ということだったので、昼食後も引き続き頑張ろうと気を引き締めました。3回戦終了後に順位は9位となり、あと一つ順位を上げることを目標に4回戦に臨みました。

結果は、メンバー4人ともにプラスの点数となり、入賞は間違いなしと確信。順位表を確認したところ見事に7チーム抜きの2位となり、銀メダルを獲得することができました。良きメンバー、そして良き対戦相手に恵まれ、4人のチームワークが実を結んだ結果だと感じました。

最後に、大会期間中は毎晩、飲みニケーションを図り、楽しく参加できたことを大変うれしく思うとともに、大会運営に関わった地元関係者の皆様に感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



表彰式の前に、銀メダルを獲得した卓上の紳士チーム全員で。(左端)



2日目の競技開始前に。作戦を練って上位を狙う。(後列右端)



北海道・東北
福島県

2025 GIFU
NENRINPIC

ソフトボール

D.M.C 常磐シニア
(選手代表)

さとう あきら
佐藤 彰さん

65歳

●参加歴：2回目

かけがえのない仲間との素晴らしき4日間

待ちに待ったねりんピックは、私にとっては今回が2度目の出場。朝5時に貸切バスで仲間15名と和気あいあいといわき市を出発。途中、東名高速道路で大渋滞に巻き込まれ、監督会議に間に合うかぎりぎりの状況になり、トイレ休憩のみで一路、岐阜県揖斐川町へ。出発から10時間かけてようやく揖斐川町にたどり着きました。会場では、地元の皆様の温かいお出迎えを受け、長旅の疲れも吹き飛びました。

試合1日目は、宿泊先が隣県の長浜市のホテルだったため、試合会場の揖斐川町までは片道1時間の移動でしたが、途中、関ヶ原古戦場を眺めながら戦国の世の兵どもに思いを馳せつつチームのスイッチを入れました。試合会場では、隣県の茨城県代表の選手と互いの健闘を誓い合いました。1回戦では広島県代表に完封勝利、続く鹿児島県代表には最終回ツーアウトまで1対0で負けていましたが、全員でつないでつないで逆転サヨナラ勝ち。まずは、目標だった全国大会での2勝を勝ち取ることができました。

試合2日目の、関ヶ原古戦場で仲間たちと戦

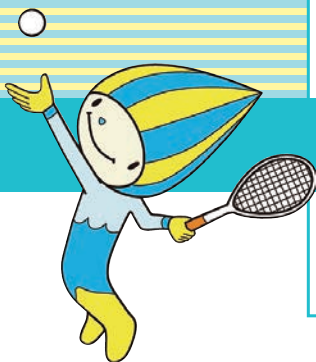
いのスイッチをオン(笑)。3回戦は長野県代表に勝利し、準々決勝は愛媛県代表に、2回戦と同様に最終回まで1点ビハインド、そこからなんとか粘って1対1の同点に追いつき、守備メンバー9名によるくじ引き抽選となりました。抽選結果をベンチで待つ心境は心臓ドキドキでしたが、今大会はチームに不思議な運もあるようで、5対4で勝利し、まさかのファイナル(最終日)まで残りました。

試合3日目の、関ヶ原古戦場の徳川軍本陣跡を眺めながら意気揚々とファイナル会場に向かいました。準決勝は奈良県代表に勝利し、福島県勢初の決勝進出を果たしてひと安心。決勝は地元岐阜県代表の完璧な走攻守に敗れましたが、地元の対戦相手にもかかわらず、岐阜の方々の福島県への熱い応援をいただき、胸に込み上げるものがありました。

素晴らしい演出の表彰式は、我がソフトボール人生一番の思い出になりました。岐阜県の皆様の心温まるおもてなしに感謝いたします。本当にありがとうございました。岐阜県最高!



記念にいただいた横断幕でピース。(左から2番目)



ソフトテニス

福の島
(監督兼選手)たけだ しゅうさく
武田 秀作さん

63歳

●参加歴：1回目

ねんりんピックは人と人をつなぐ架け橋

ぎふ大会に、福島県代表チーム・福の島の監督兼選手として参加させていただきました。監督としてチームをまとめる責任と、選手としてコートに立つ緊張感、その両方を味わえる貴重な大会でした。大会は岐阜県の澄んだ空気と雄大な自然に囲まれた会場で行われ、年齢を超えた熱い戦いが繰り広げられました。

ところが、初戦開始は10時だったにもかかわらず、私たちが会場入りしたのは試合直前。実は受付は8時必須だったのです！受付の方には大変ご心配とご迷惑をおかけしましたが、そのおかげで緊張する暇もなく試合に突入。結果的に、普段以上のパフォーマンスを発揮できたのではないかと思います。

試合は、全国から選ばれた代表選手との対戦。簡単に勝てる相手ではなく、素晴らしいプレイに押される場面もありました。しかし、仲間の声援と粘り強いプレイで流れを引き寄せ、最後まであきらめない戦いができたことが印象に残っています。

監督としては、チームの雰囲気づくりに最大限気を配り、選手の膝や腰のコンディションを確認しながら戦術を練り直す場面もありました。選手一人ひとりが自分の役割を果たし、笑顔で試合する姿を見ると、勝敗以上に「この大会に参加できてよかった」と心から思えました。

結果として、福島県チームは入賞こそ逃しましたが、全員が最後

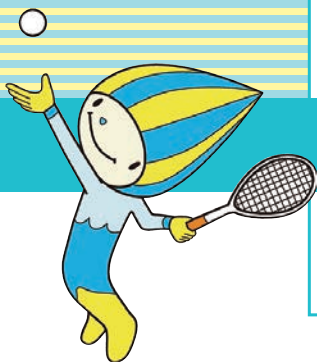
まで笑顔でプレイし、無事に大会を終えることができました。監督として、選手として、二重の責任を果たせたことは私にとって大きな自信となり、これからの活動への原動力になっています。

最終試合後、大会役員の方から地元の小学生が作ってくれた歓迎旗をいただきました。「がんばれ福島県！」の文字とともに、キビタン、赤べこ、あかつき、サンふじ、喜多方ラーメンなど、福島県のことを一生懸命調べて丁寧に描いてくれたことが伝わる素晴らしい旗でした。大会役員を含め、岐阜県の皆様には心から感謝申し上げます。

福島県代表として戦えた誇りと、仲間と過ごした時間は一生の宝物です。ねんりんピックは単なる競技大会ではなく、人と人をつなぐ架け橋であり、健康と絆を育む場だとあらためて実感しました。これからもソフトテニスを通じて心身を鍛え、仲間と笑顔でコートに立ち続けたいと思います。



試合会場で、福の島チーム全員で記念撮影。(左端)



ソフトテニス

恋の街札幌
(選手)よしの
吉野 さおりさん
60歳
●参加歴：1回目

恋の街札幌～♪♪ 楽しくやろう！ イェーイ！！

大垣でテニスがしたい！—若い頃に岐阜の実業団でプレイしていたテニス仲間の希望でした。男子には仕事の休みを1年前から取ってもらい、ミックスは何度もねりん出場経験のある先輩にお願いしました。私はいつも組んでいるペアが北海道チームとなるため離れ離れになりましたので、組んだことがないけれど気心の知れた仲間をお願いします、札幌市と北海道が決勝戦で戦うという目標で臨みました。

お手製の「恋の街札幌」の応援幕を掲げ、うちわを振って称え合い健闘しましたが、惜しくも予選2位で初日が終了しました。2日目は予選で2位になれたおかげで、念願の大垣市で試合ができました。しかも2位トーナメントで優勝！まるで決勝トーナメントで優勝したかのような盛り上がりになり本当にうれしく思いました。

ねりんピック＝高齢者の交流大会!? とい

うイメージが強く、少し甘く見ていましたが、実際はどのチームもレベルが高く素晴らしいプレイの連続でした！1日目、2日目と会場が変わり、対戦相手でもなくとも「昔、札幌に住んでいた」「親戚がいる」「旅行で行った」などとお声がけくださり、話に花が咲いて交流の輪が広がりました。

岐阜メモリアルセンターでの総合開会式では、全国各地ののぼりが最前列に一齐に並び、まさに織田信長の出陣式のような壮観な眺めでした。

芝生広場では、岐阜の名産品、体験コーナー、日本三大桜の一つである根尾谷淡墨桜を題材にした陶壁画「淡墨桜大陶壁」が、リアリスティックで今にも花びらが散ってきそうで美しいものでした。体験コーナーでは鎧兜を装着するという貴重な経験もしました。

今大会は移動も食事も一齐で、宿泊は3人部屋、3人分の荷物で足の踏み場がない状態でしたが、それがまた昔懐かしの修学旅行のようで思い出の一つになりました。

今回のメンバーは地域の各クラブに所属しており、中学生から一般など各年齢層とともに市内大会、全道大会、全国大会入賞を目指して日夜練習に励んでおります。若い仲間たちには、壮年になってもこのような大きな大会に参加して楽しめることを伝えたいと思います。

最後になりますが、岐阜県の大会運営の関係者の皆様、札幌市老人クラブ連合会、札幌市役所の皆様にご大変お世話になりました。



試合開始前に、チーム全員で集合写真。(前列左端)